第 2 回 美里町総合計画審議会生活環境部会 議事録

年 月 日	平成 27 年 9 月 25 日 (金)
場 所	本庁舎 3 階会議室
審 議 開 始 時 間	午後 6 時 02 分
出 席 委 員	曾根昭夫委員 松田政治委員 古内世紀委員 徳永幸之委員
欠 席 委 員	引地豊委員 高橋実委員
審 議 終 了 時 間	午後 7 時 55 分

審議開始

- 午後 6 時 02 分 開始 -

協議

曾根部会長 それでは定刻となりましたので始めます。

櫻井防災管財課長 連絡事項ですが、よろしいでしょうか。

曾根部会長 事務局どうぞ。

櫻井防災管財課長 本日の部会でございますが、高橋委員から欠席の連絡が入っております。引地委員については連絡がつかないという状況ですが、おそらく欠席かと思われます。なお、本日建設課の沼津課長は所用のため、佐藤課長補佐が代理で出席しております。

佐藤建設課長補佐 佐藤です。よろしく願いいたします。

櫻井防災管財課長 お手元に追加資料をお配りいたしました。松田委員さんからの要望で、資料 8 について字が小さく見えづらいとご指摘がありましたので、拡大したものををご用意させていただきました。なお、前回の第 1 回目の部会議事録のコピーを各委員さんにお渡ししておりますので、後程ご確認いただければと思います。

また、部会議事録調整の関係上、発言の際は氏名を述べていただいてからご発言をお願いしたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。以上でございます。

曾根部会長 ありがとうございました。

それでは早速始めたいと思います。

前回日程調整し本日開催となったわけでございますが、前回、資料を読んで勉強してきてくださ

いと言いましたが、その前に基本的なことを理解していないと、まずいんじゃないかと思ったんですけども、今日はですね、配られている資料の「はじめに」という部分をフリートークで進めていきたいと思います。従いましてフリートークですので名前を述べてから、なんでも発言していただきたいと思います。よろしく願いいたします。

松田委員

松田です。案の中に目次がありますよね。目次の基本構想の3番、ページでいうと22ページですが、取り組みの方向性がありますよね。案ですよ。役場から頂いた資料です。資料5です。目次の3番に基本方針とありますけども、22ページには「基本方針」ではなく「取組の方向性」となっています。どちらかに統一しないといけないと思います。

もう2点あるのですが、基本計画の施策9番です。目次には「歴史・文化的な・・・」とあり、計画案の50ページには「歴史的・文化的な・・・」となっていて、「的」字が入っていますので、これも統一したほうが良いと思います。

もう一つは施策18、19です。目次では「家庭を支援する・・・」となっていますが、計画案74、75ページでは「家族を支援する・・・」となっていますので、こちらも統一したほうが良いと思います。

曾根部会長

今の件について、担当から即答できれば答えてください。

櫻井防災管財課長

私からお答えいたします。只今のご指摘の件については、私も気付かなかった部分ではありますが、企画財政課で原稿を作成する際の単純な入力ミスだと思われます。これにつきましては後程確認し、統一するようにしたいと思います。

曾根部会長

後程整理して報告するそうです。

櫻井防災管財課長

これはまだ案の状態ですので・・・。

松田委員

最終の段階でいいんじゃないですか。

古内委員

古内です。まだ自分が担当する部分しか目を通してなく全体には目を通していないのですが、もしこの総合計画案に記載があればページ等を教えていただきたいのですが、無ければ資料等あれば後日提示いただきたいと思います。美里町の住民で美里町内に務めている人の人数、それから仙台市に通勤している人の人数、それから古川に通勤している人の人数と石巻に通勤している人の人数とか、そういう統計がもしあれば後日教えていただきたいと思います。なければそういう統計を取った方がいいと思います。それがあればいろいろな施策の参考になるとと思います。

櫻井防災管財課長

確認し資料があれば後程提示いたします。

曾根部会長

次回の宿題とします。

松田委員

そのようなことは分かるんですか。

櫻井防災管財課長 資料としてあると思いますので、確認してみます。

古内委員 それに追加して、通勤している方が何を使って通勤しているか、車なのかJRなのか、そこまで分かればさらに良いと思います。通勤手段ですね。

曾根部会長 次回の部会で提示してください。
他にありませんか。
それでは私からちょっとお聞きしたいのですが、計画案10ページのところですが、ここで町の概要を述べるわけですが、国勢調査人口を掲げているんですね。人口については全て国勢調査の人口が書かれています。住民基本台帳をベースにした考え方も一つあるんですが、その辺の取り扱いについて説明していただけませんか。

櫻井防災管財課長 詳細については私も分かりかねますが、こういった資料は、おそらくこれまでも国勢調査の人口を採用していたのではないかと思います。

曾根部会長 これまでは住民基本台帳の数字を使ってるんですよ。前回は問題になったんですけども、国勢調査人口よりも住民基本台帳の数字だと、毎年毎年数字が変わるので動向を捉えられるということだったんですね。なぜ国勢調査の数字を使うのかなあというのが疑問だったんですよ。

後藤町民生活課長 事務局に入ってもらい確認します。呼んできます。

曾根部会長 お願いします。

佐々木政策係長 10ページの「はじめに」でよろしいですか。

曾根部会長 基本的な部分を理解してから入らないといけないということで・・・。

佐々木下水道課長 国勢調査の人口を採用していますが、住民基本台帳の人口を使った方がいいんじゃないですかというご質問が出たところです。

佐々木政策係長 町の考えとしては、国勢調査人口、住民基本台帳人口それぞれ一長一短があるということで、住民基本台帳については毎月最新の人口データが取れることもありますけども、国勢調査人口につきましては様々なデータ分析された人口でもあります。宮城県でも国勢調査人口に基づいて人口の出入りを推計し、宮城県の推計人口を毎月出していますので国勢調査人口を基準としております。

曾根部会長 国勢調査人口は5年に1回しか確定しないんですよ。中間については何も分からない訳です。

佐々木政策係長 国勢調査人口を元にして、人口の出入りを宮城県では引き算足し算をして、人口を追っている数値があります。宮城県の推計人口を毎月出しています。

徳永委員 通常は5年ごとの国勢調査で、その間の年についてはそれを基準に住基台帳の人口の変化で補正するはずですね。

曾根部会長 住民基本台帳が基本じゃないの。私が言っているのは、口が酸っぱくなるくらい言ってるんですけど、前の時もだいぶ揉めたんです。住民基本台帳で進めましようとなったんです。ここへ来て国勢調査人口と変わっています。その合理的な説明ができますかということです。

佐々木政策係長 繰り返しになりますが、国勢調査人口につきましては、実態として10月1日に、ここの地区にどれくらい住んでいたかといった人口でございます。住民基本台帳につきましては、住所を置いていてもほかの場所に住んでいる方も含まれますので、それぞれ一長一短があると考えております。ですので、どちらに基準を置くかということなのですが、今回につきましては人口ビジョンを作るうえで、各自治体は国勢調査人口を元にした数字で人口ビジョンを作成しております。ほかの自治体と比較等をできるようにということで国勢調査人口に合わせたいと考えております。

曾根部会長 これ、前回と今回で必ず比較されます。全然違うじゃないかとなりますよ。合理的な説明を書いておかないと。まあそういうことです。私からは人口について質問しました。

松田委員 はい。

曾根部会長 はいどうぞ。

松田委員 松田です。前回の総合計画の策定と取組の総括について、を読んでいるのですが、今回は重点的なことを明確にして、機能性の高い総合計画にしていかなければならないということで、新しい基本構想が生まれたわけですが、ずばり言いますと、「産業が発展し人が集い賑わいのある生き生きとした暮らしができるまち」とあり、これが新しい基本構想ですよね。ここは稲作地帯であり米どころで、まるっきり田舎で平和な暮らしがあるところですけども、夢として「産業が発展し人が集い賑わいのある生き生きとした暮らしができるまち」という描いた餅のようなものではあると思いますが、実際にこれを基本構想の重点的な課題とした場合に、5年後10年後にどういう総括が出てくるんだろうかと想像しちゃうんですよね。これ素直な気持ちなんですよ。策定委員会では全然問題にならなかったですか。こういう基本構想の美辞麗句とは言いませんけども、各課の課長さん方にこれで違和感があるのかないのか、これで何年間が行くのかですね。果たしてこれが実現するのでしょうか。「産業が発展し」とありますが、一つや二つの産業が発展したからといっても、町が潤ったり人が集まったり賑わうのかと。新しいIT企業が来て一気に変わるとかはあるでしょうけども、これを基本構想の重点的課題としてスタートするとすると、将来5年後10年後に「重点的にやってまずかった」と言うような総括が出てくるような気がします。ですから策定委員会の方々は、全然違和感がなかったのかどうか、ちょっと生意気なようですけどもちょっとお聞きしたいなと思ったんです。

櫻井防災管財課長 我々の考えですね。

- 松田委員 はい、そうです。
- 櫻井防災管財課長 ひとつのキャッチフレーズと言ったらなんですが、看板になるような謳い文句が目標設定のフレーズとしてこのようなものが必要という思いは当然あります。産業と言いましても、先ほどのIT企業もそうですが、農業なども当然それに含まれるわけです。産業が発展しないことには町が衰退していきますので、昨今の人口減少社会に対応するには、やはりそういった部分を立ち上げなければいけないという発想であると、わたしは受け止めております。目標というのは高めに設定するというのも一つの考えではないかと思えます。
- 松田委員 隣の課長さんにも聞いてみたいのですが。
- 後藤町民生活課長 先の策定委員会ではこれに関しての議論はありませんでした。
- 松田委員 そういう意見はなかったと。
- 後藤町民生活課長 はい、ありませんでした。
ただ、今日そのようなお話をいただいて、改めて考えたんですけども計画の看板になる部分ですので、特に違和感はありません。仕事をする際にこのような目標に向かって仕事をしておりますので違和感はありません。
- 松田委員 分かりました。
他の課長さん、どうですか。
- 佐々木下水道課長 今お話があったとおり目標ですので、あくまでも目標に向かって進むためには、前向きで高い目標がないと、それに向けてのいろいろな事業とか施策を打ち出していけないと。当然今よりも高いところにそれを設定しておかないと、様々な事業が生きてこないのかなと思えますので、目標はやはり高めに置くことが必要と考えます。
- 松田委員 分かりました。
- 早坂水道事業所長 目標を設定し人が集い、まちづくりを推進していくということですので、構想としては特に不思議な感じはいたしません。
- 松田委員 2040年にはこういう町をつくるのが目標なんですね。そういうことですね。
- 徳永委員 すいません、この部分については、全体会で議論すべきことです。これはあくまで事務局案ですので、それについて審議会として、ここをこういうふうに変えた方がいいんじゃないかということは話していただいて良いと思うんですよ。そういう意味で重点目標をより現実的な目標として、こういうことにすべきであるという意見であれば全体会で出していただければよろしいと思えます。

松田委員 一応今日はフリートークということでしたので、疑問に思っていること言ってみるところです。重点的となっておりますので、これ一本なんですよ。これに重点的に力を注いでいくわけですよ。最初から農村地帯なのに何故といった意見があるものですから、策定委員会全員一致で決まった目標といたしますけども、先ほど言いましたように、何年後かの総括にはどういうふうな言葉が並ぶのかなという私の単純な疑問を述べた訳です。

須田企画財政課長 この前もお話ししたんですけども、設定した内容の理由等は次回の全体会でご説明させていただきます。確かにこの目標を見ると松田委員さんがおっしゃるとおり何故こうなったか、目標の背景は何かと疑問に感じると思いますので、次回の全体会でご説明した後に、徳永委員さんがおっしゃったとおり全体会の中でご議論いただければなと思っております。

松田委員 はい、分かりました。

曾根部会長 全体会でこの件はご説明するそうですから、よろしくお願いします。
他にありますか。

古内委員 古内です。先ほど国勢調査の人口を元にするか、住民基本台帳の人口を元にするかというお話があったんですが、美里町の場合はその差はかなり少ないんじゃないですか。例えば1%位とか、1%でも250人位になるんでしょうけど。

須田企画財政課長 だいたい2%位ですね。

古内委員 2%位ですか。そうすると500人位の誤差ですか。先ほどのご質問は、次の国勢調査まで開きが出てくることを問題にされているんですか。

曾根部会長 いや、そうではないですよ。向こう5年間の計画を策定するわけですから、5年ごとにしか出てこない数字なので、1年ごとにそれを検証しなければなりません。そこを言っているのです。

須田企画財政課長 毎月国勢調査人口の推計は出せますので、この部分につきましては2回目の全体会で人口ビジョンのご説明の際にお話しする予定としておりました。確かにこれまで10年間は住基台帳の数字でやってきました。住基でやってきたという経過は建設計画まで遡るんですけども、建設計画では1年刻みのコーホート変化率を採用し人口推計したものであり、当時国勢調査のデータがなく住基人口を利用しました。その流れで次の年に策定した総合計画でも同じく住基台帳人口を使った人口推計を利用しこの10年間はそれを利用してきました。ただし一般的に使いやすいのは国勢調査のデータですので、今回は切り替えていきたいということでこのようになりました。

曾根委員 これまでやってきたことを打ち消すには、その理由が明確でなければ使えないんです。
「なぜ変わったの？」となりますよ。

須田企画財政課長

今お話ししたように同じ比率で差が開くだけであります。決して打ち消すわけではなく、今までは住基を使ってきましたが、住基が一番ひどいのが、実際に住んでいる人の格差が2%位開きが出てくることです。それからもう一つは全国的に分析しているデータは国勢調査人口を使っていますので、他と比較する際に比較しにくいという点です。ですので、一般的に使われている基準とされている国勢調査人口で推計するという点です。もう一つは場合によっては住基人口を使う必要も出てきますので、今回は最初の推計としては国勢調査を使いますが、時間的な余裕が出てくる、或いは二つの推計があって混乱しないようにきちんと整理がつけば、住基についての人口推計もやるべきであると考えます。これは平成28年に入ってから必要であればやろうと考えております。ですので、できれば両方使うのが一番いいのかもしれませんが、最初の計画は基本となる国勢調査人口を元に策定し、場合によっては今後必要であれば住基人口の推計もしていくという方法を考えておりますので、住基が駄目であるということを言っているわけではございません。

曾根部会長

これまでは住民基本台帳を利用していました、これからはこのような理由で国勢調査人口をつかいます、とするのであれば、その理由を明確にしないと、一般の方々が見たときに困るのではないかと思うんです。ですから明確な理由を文言として追加するべきではないですかというのが私の提案なんです。

須田企画財政課長

そうですね、それは必要だと思います。説明は付け加えるべきだと思います。

曾根部会長

ありがとうございました。

2040年の将来像に向けての計画期間と言いつつ、今後5年間の計画としますと書いていますが、計画案の12ページですね。ちょっと分かりにくいですね。理解しにくい。

佐々木政策係長

12ページですね。この計画を何故作るのかといったところでございますが、町の方向性を示すものであるということで作っております。それにつきましては、今後5年間で一つの成果を得ながら次の5年間に進み、段階的に大きな括りである2040年までの経路を20ページの図で表しているものでございます。計画そのものは5年間で回していきます。しかし長期的目標としては2040年を見据えているという作りになっております。

曾根部会長

総合計画の計画と言いつつですね、なんか分からない。

徳永委員

今の事務局説明の補足のようになりますが、これは総合計画と総合戦略の二つをくっつけたというのが理由になってくると思うんですが、この町をどうしていくのかと考えたときには、かなり先まで見通した中で考えていかなければいけません。本来の総合計画、長期計画はそうあるべきと思っているのですが、その一方で、より現実的、短期的な目標を明確に定めておかないと、長期の目標だけではなかなか前に進まないということがありますので、総合計画の計画期間が、5年がいいのか、10年がいいのか、より長期がいいのかという議論が分かれるところではあるのですが、これまで多くは10年くらいで計画し途中の5年で見直しをするというローリングでやっていきましたよといった話になっていましたけども、今回の総合戦略は5年でやりなさいと国から言われますから、その戦略は作らなければいけないということであれば、総合計画もしっかり5年ごとに

チェックをしながら短期計画で回していくという考え方も当然あるわけで、それを美里町では採用したということもあると思うんですね。ただ、その説明があまり書かれてないので、なぜ2040年を将来の目標とするのか、なぜ今まで10年だったものを5年にするのかといったものを最初に書いておかないといけないのでしょうか。そういう意味では20ページに図解したのものがあるんですけども、こういう絵のほうが先に出てきて12ページのところで、そこをしっかりと説明しておく必要があるのかなと、今お話を聞いて感じたところです。

古内委員 確かにあれですよ。5年も経つと経済情勢や社会情勢はかなり変わりますので、そういう小刻みに見ていくということは必要なんでしょうね。

徳永委員 そうですね。ただ5年ごとに目標がころころと変わるのも困るので、ある程度見通したうえで、当面この5年間はこれをやるよというしっかりとした目標を立てていくスタンスだと思います。

曾根部会長 今、教授が言われたんですけども、編集をもっと変えたら良いんじゃないですか。分かりにくいです。何回も見たんですが、なんか分かりづらいなと思います。

松田委員 はい。

曾根部会長 はい、どうぞ。

松田委員 松田です。4章の部分については櫻井課長から拡大したものを頂きましたので、これに基づいて次の部会ではやれば良いと思います。今はフリートークということで、次の全体会で説明はされますけども、今気づいた点をこの場で質問したいと思うのですが、今までの総括の中で、全網羅したものであると、そして今度はそれを重点化し機能性の高い内容、要するにできる総合計画の内容にしたいとの反省から生まれたものが、この構想だと僕は解釈しています。この基本構想に対して全課長が違和感なしと、一部の方はそうではないと言いましたけども、それでこの基本構想を実現するという、段階的に2040年にそうするというんでしょうけれども、これが実際に重点的に機能性の高い総合計画の内容にしたということですから、先ほど策定委員の方にお聞きしたんですが、計画案の21ページですね、「稼げるまちの実現」「人が集まるまちの実現」「産み育てやすいまちの実現」「生涯を通して学び楽しむまちづくり」「健やかで安心なまちづくり」「力強い産業がいきづくまちづくり」「くらしやすさを実感できるまちづくり」とこういうふうに行くわけですが、目標や看板としたら、これ反省から生まれた実効性のある計画なのかというのが僕の単純な意見なんです。こういう部分に関して各課長さん方が何も感じない、目標は高い方がいいとかというだけで、次の全体会で須田課長が説明するということですが、うーんどうなのかなと。看板だけでいいものか、もうちょっと現実味のあるものをね。次の総括の時には、目に見えるような気がします。僕個人の意見ですよ。だから田舎においてはもうちょっと、仕事頑張るのはいいんですけどね。やっぱり今現在の状態に感謝するというか容認するというか、そういうことを忘れていないかと思うんです、策定委員の人たちは。というのは、どんどん人口減っていきますよ。何をやっても減っていきます。それを分かっているやっっているような気がするんですよ。だから、このところがちょっと、どうしても引っかかるというか、あまり美辞麗句だけ並べて前も失敗した

んですよね。パッと見て誰も文句言えないような文言が続いていましたからね。これは凄いなあと
いう。けど実際には、毎日の仕事と総合計画というのは、どういう繋がりがあるのかなど。どう
なんでしょうね、毎日やっている仕事とこの総合計画はどういう繋がりがあるんでしょうね。毎日
やっている仕事を創意工夫して、弱点を見つけてそれを改善していく方が良いと思うんですよね。
別に回答を求めているわけではないですよ。これを見てこう感じるということです。

曾根部会長

20ページの大きな囲いの中に基本構想が書かれていますが、「産業が発展し、人が集い・・・」
と。前の構想がどうしていけないのか。「人集い、共に築く、幸せと豊かさを実感できる町」これ
が一番いいと思ってるんです。私はそう思ってるんですが、あえて文言を変えて産業がという、農
業ばかりではないと先ほど話が出たようですが、文言を変えたからといって良いものではないです
ね。私になぜ、それを言うかということですね、ここの基本的な五つの柱、これまったく前と同じで
すね。細かい所は別ですけども。前回と同じ五つの柱でやっているわけです。どうして変えたのか
なと感じているところです。

須田企画財政課長

こちらにつきましては、全体会でご説明いたします。

松田委員

全体会で明瞭な回答を頂けるということですね。

須田企画財政課長

ご説明する内容が明確か明瞭かは分かりませんが全体会でご説明します。できるだけ明快にご説
明いたします。

古内委員

古内です。フリートークということなので、教えていただきたいと思うのですが、この計画とい
うのは各市町村で独自で作られると思うのですが、宮城県にも長期総合計画というものがあると思
いますが、新しいものを今作ろうとしているのかもしれないかもしれませんが、それとの関連、連動というもの
を意識していくということはこれから出てくるのでしょうか。例えば宮城県でも県内の産業をこの
地域にこのようなものを作っていきたいというようなものがあると思いますが、それと関係してく
ると思うんですね。

それからもう一つは、大崎広域圏でそのようなお話をする場というものがあるのでしょうか。又
はそのような計画というものはあるのでしょうか。

須田企画財政課長

宮城県の計画も、それから宮城県でも地方版の総合戦略を作ってホームページにも載せています
けども、町の行政運営に直接関係してくる施策的なものは特にはありません。ただしエリアとして
県北部地域は、例えば農業振興地域とかそういうエリアを作って示してはいますけれども、それほ
ど具体的な施策というものは県として示していません。県も市町村に直接関係する計画を作る場合
は、市町村に相談といいますか協議はされますが、そういったものは特に来ていませんし、計画を
見ていただくとお分りのとおり、町に対して具体的なものというものはないです。ただ富み
ぎということで、今の知事になってからは産業に重点的に力を入れていまして、富谷町、大衡村、
大和町の周辺開発の波及と言いますか、それにこのエリアも入っていますがその程度です。特に上
位計画からの計画的なものというものは示されていません。

- 古内委員 県の位置づけとしては、この周辺は農業とかそういうものを盛んにするといったような位置づけ
なんですか。
- 櫻井防災管財課長 結局は県全体のバランスという視点で計画していくと思うんですね。ですから県としてはマクロ
的な視点でのそういったゾーニングと言いますか、そのような流れになっていると思います。です
ので各自治体の政策といったものは各市町村にお任せと言いますか、それぞれ独自でというよ
うな位置づけになると思われます。大衡村など部分的に大企業が誘致されるようであれば、当然町のス
タンスも大きな影響を受けますので、それに合わせた形でそれを見据えた上での町の計画を策定す
る形には当然なると思います。
- 古内委員 道路についてですが、東北自動車道と三陸自動車道の2本ありますが、あとは登米市の方に何か
ちょっとしたものがありますが、国道108号線が石巻から涌谷、美里を經由して古川に通じてい
ますが、あの道路の整備計画は県あるいは国で作っているのでしょうか。
- 曽根部会長 構想はあったはずですね。
- 佐藤建設課長補佐 建設課の佐藤です。現在のところ計画としては、渋滞を引き起こす交差点というものがございま
して、1か所は小さいポケットを作って整備しているのですが、その他に2か所右折レーンとい
うか交通を流すためのレーン設置を2か所やるという国の計画があります。先ほどおっしゃられた大
きな構想というのは今のところは具体的にはないという状況でございます。
- 古内委員 古川インターチェンジの接続について、途中で自然渋滞を起こしたりしてあまり良くないなと感
じています。かといって大和インターチェンジあるいは大衡インターはちょっとそれほど近くもな
いし。
- 佐藤建設課長補佐 三本木のスマートインターチェンジがありますが、そこはだいぶ利用があるようです。
- 古内委員 ただ三本木は大型トラックの利用は出来ませんよね。
- 佐藤建設課長補佐 はい、利用できません。
- 古内委員 県の工事ですか、志田橋の架け替え工事をしていますが、あれで交通量が大幅増えると思うん
ですが、それから分かれて小牛田に来る道路がありますよね。北浦駅近くに出る道路ですが、あれも
かなり便利ではあるんですけど。
- 佐藤建設課長補佐 あれは県道ですね、小牛田松島線ですね。
- 古内委員 青生から行くときは途中ちょっと狭いんですよね。
- 佐藤建設課長補佐 そうですね、ちょっと狭くなりますね。

松田委員

松田です。部会の専門的なことは次回からということで、この総合計画の中の疑問点について申し上げたいと思います。5ページ、住民意向調査5ページですね。27年度7月実施の「住民意向調査」重要度調査結果についてですが、資料9-2ですね。ここに住民が重要と考えていることとかが載っています。今当町は財政が非常にひっ迫しているという状況で、国からの交付金をあてにしているんな計画をしていると思いますが、総務省から全国的に一齐に下ってくる交付金の他に、例えば各省が持っている予算があるはずですが、昔聞いたことがあるんですけど、ある田舎の村長さんが、毎日のように国会に行ってあいさつ回りをして、各省を回って顔見知りになり、その中でこういう予算があるよ、こういうものがあるよというようなことを探し出してきて村を潤したということを知ったことがあります。町長や村長の仕事の中には、昔は自民党の人たちは、よく秘書を連れて省庁を回り顔繋ぎをして、お金を回してもらえようものはないかということをやっていたと。大きなことは言えないのですが、平和行政の推進というようなことを前町長は他市町村に働きかけて広げたと、ホームページにも載っていました。また議会で政府に対しての反対決議をして、一齐に貰えるおこぼれしか貰わないというのは、ちょっと違うんじゃないかと。これを見ると重要度から言っても20番以下は切り捨ててもいいと思うんです。平和行政と言えば誰も文句は言わないと思いますが、現実を見た場合には、町長や副町長というものは席にいないで、どんどん中央に出て行って、情報を貰ってくるとかお金を取ってくるとか、そういうものが仕事じゃないのかといつも思っているんです。本当に町民の事とか思えばそういうことをすると思います。だけでも住民意識のレベルというか、そういうことからいくと、そういうことはしなくても誰にでも貰えるものをちょっと貰ってくると。だから議員も反対する人が居ないんですね。社民党が本部から下った文章をそのまま議会に出したりして政府に対する反対の決議をしていますね。いつの間にかこういう事になったのかということを知りたいんですけどね。政治的なことは言えないんですけども、やっぱりちょっと他の町長に働きかけて平和行政を実現したと喜ぶような町政だったんですね長い間。職員の中に左懸かった人が居なかったことが幸いでしたが、やはり、もう少し政府に逆らわないような考えというのが社会教育だと僕は思うんですけどね。趣味の会とか社会教育とか町は補助金バンバン出していますけども、本当の社会教育というのはそれはおかしいよと、共産党と社民党の意見ばかり通っている町というのはおかしいんじゃないかと。町政がそういうことやっているから、僕もこういう事を言った訳ですけども。あまり宗教とかについて言うてはいけないんですけども、課長さん方もそうだよと思う方一人くらい居ませんか。町長に逆らうわけにはいかないけど。議会も町政もそのように流れてきているんですよ。どこかで断ち切らないとね。

曾根部会長

今のような発言は表立ったこのような場での発言はちょっとね。流してください。申し訳ないですが。

松田委員

流さなくていいですよ。文章にして頂いて結構ですよ。

本当に町のことを考えて交付金などを貰うのであれば、それくらいのことをもっと言う事ですよ。はい、終わります。

古内委員

宮城県や美里町だけのことではないと思うのですが、企業、特に製造業が賃金の安い東南アジアとかそういったところに工場を移転し、働き口が非常に減ってきています。例えば農村においても

主婦などが働いていた工場が閉鎖されたりしていますが、美里町やこの周辺でも見られることなんですか。その影響というのはあるんでしょうか。

佐々木政策係長 企業の離職状況ということですか。

古内委員 離職状況ではなく、具体的に言うと東北アルプスなどが撤退していくとかですね。

須田係長 具体的な数は即答できませんが、少なからずグローバル化の影響は受けていますので、お話しされたように、町工場での電子工業部品の組み立てなどあったものが無くなったということは結構あると思います。しかし最近ではLED等を開発しているヤマセ電気さんとかキョーユーさんとか違った形の産業ですが、そこで雇用が伸びているということもあります。産業構造そのものも変わっています。前まではグローバル化の影響を受けて、かつてあった町工場等が閉鎖されています。

古内委員 そのような中で、目標である産業を盛んにすることを実現していくというハードルはなかなか高いんですが、何とか実現していこうとそういう事ですね。

須田企画財政課長 そうですね。この10年間でできなかった政策分野というのは、この部分が一番弱かった所です。この部分について新しいものを興すのではなく、今までやってきた中で対応ができず、沈んだ部分を重点化しようという考えで取り上げた一つの理由です。

曾根部会長 石巻、古川を通して陸羽東線沿いのそういう構想ありましたよね。看板が立ってましたが、今は見なくなりましたが、あれはやめたんですか。

佐藤建設課長補佐 まだ残っています。

曾根部会長 残っているんですね。それはお題目があるのだから。近隣市町村が集まって話を一杯やるとか、そういうふうなことはあるのですか。

佐藤建設課長補佐 期成同盟会がございまして、石巻酒田間の枠組みで年に1回総会があります。現在高規格道路の候補路線になっていない状態です。それをなんとか候補路線にしようということで、陳情と言いますか要望活動をしている状況でございます。

曾根部会長 そうですか。分かりました。

あれだけのものを立ち上げているのだから、相当強力にしないと実現しない。貨物駅をもってくると言った方がおったようですけども、あんなのこそ全然なっていない。わたし分かっていたんだから。それよりも高規格道路化を進めていけば、古内委員さんが言われたアクセスの関係だって全然変わってくると思うんですよ。ひとつその辺をやっていただきたいとそう思います。フリーゾーンなのでなんでも言えますから。

徳永委員 確かに高規格道路化がトーンダウンしちゃったんで、県北築館から三陸道へ結ぶ部分は高規格で

位置付けられているので、尚且つ今回の震災復興支援という形で、急ピッチでやっています。

曾根部会長

やっぱり働きかけというか、先ほど松田さんもおっしゃっていましたが、やはり政治家を使わないとだめですね。強力に使わないとだめですよ。せっかく出しているんだから。その点よろしくお願いします。

古内委員

J R小牛田駅の乗降客が増えているということを書いてあったようですが、どうなのでしょう、それとも減っているんですか。

櫻井防災管財課長

計画案の110ページですね。施策32の 現状と課題の二つ目の項目です

佐々木政策係長

資料8の132ページのページ右側に「 主要な目標及びB Mを捕捉する統計資料等」がございます。この表の上から三段目に小牛田駅の乗車人員(1日平均)という項目がございまして、平成22年は1,984人で平成25年は2,127人と増えてはいますが、平成23年は1,793人ということで前年より減っています。これは震災の影響かと思われます。今後1、2年様子を見ていかないと、本当に増えているのか分かりますが、現状としては増加しているという見方ができるのではないかと思います。

櫻井防災管財課長

補足ですが、この数字につきましては、小牛田駅に問い合わせをして確認した数字であります。本日小牛田駅長さんが欠席されていますが、あくまでも切符や定期券でカウントしている数字ですので、他の用事で駅を訪れた方などは含まれていない数字となっております。

佐々木政策係長

徳永先生、これはどういう見方をすればよろしいのでしょうか。

徳永委員

今のお話からすると、おそらく運賃収入から出している数字なのかなと思うのですが、JRがどのようにカウントしているかは分かりませんが、定期券購入者については毎日利用しているという条件でカウントしているかもしれませんし、実数をカウントしたデータとは若干食い違ったものかもしれませんが、傾向を見る上では、それほどずれはないだろうと思います。1日乗降2千人というのは、有人駅としてこれくらいは欲しいという人数だと思うんですね。いわゆる新駅設置となると2千人くらい乗るよとなれば、JRでも作りましょうかと。要は人件費が賄えるくらいの客数というのがこれくらいという感覚なのかなと思います。ちなみに5千人を超えると、バリアフリーとかやらなくてはならないとか優先的に整備を進めてもらえるような駅ということになります。

古内委員

駅の東側に通じる通路がありますが、設置したのは住宅供給公社でしょうか。

櫻井防災管財課長

自由通路ですね。あれは町が設置しました。

古内委員

駅東の大きな通りの南側かな、北側にはアパート等が建っていますが、南側は農道までまだ空地となっていますが、町として利用計画を考えているものはありますか。

- 須田企画財政課長 商業ゾーンということで以前はスーパーが建つ構想がありましたが、その後なくなりました。
- 古内委員 国道から少し入らなければならないということもありますからね。
- 櫻井防災管財課長 以前は小牛田駅の下に道路を通すアンダーパスの構想もありました。費用的な問題から実現化していません。
- 佐藤建設課長補佐 構想としてはまだ残っております。
- 松田委員 そういうのも国から貰ってこなくちゃいけない。そういうことを考えないと進まないよ。そういう考えを持ってもらわないと困る。
- 古内委員 駅東に病院というのはどうなのでしょう。飽和状態なのでしょうかね。
- 櫻井防災管財課長 町内には内科医院はそれなりの数がありますが、以前から眼科医が不足しているという声はございますね。
- 松田委員 松田です。防災管財課長がいらっしゃるのでお聞きしますが、鳴瀬川の川底が相当堆積してるのですが、大崎地域の話し合いがありますよね。その時にそういう話を出して欲しいと思うのですが。
- 櫻井防災管財課長 河川管理になりますので、建設課とも絡んでくるんですけども、年に1、2回現地視察として、問題のある個所を国交省と合同巡視をしております。前は7月頃だったと思いますが、そういった巡視をしております。
- 松田委員 福ヶ袋と練牛小学校の前辺りはかなり堆積してますよ。この前大崎市で堤防が決壊して逆に助かったんじゃないかと思うんですよ。以前はあと1メートル位まで増水したんですが、今回は2～3メートル位余裕がありました。といことはあの決壊がなければ危なかったですよ。堤防を歩いてみると亀裂のある個所がずいぶんありますから。この件は国も把握しているとは思いますが、南郷地区は高い建物が全然ないんですね。あれが崩れたら全滅ですよ。避難できるような4、5階建ての鉄筋コンクリートの建物を建てた方がよいのではないですか。
- 櫻井防災管財課長 現状としては、小牛田地域も高い所は限られています。当町は江合川と鳴瀬川の間に位置してまして、どの地域も危険です。例えば鳴瀬川が青生地区で決壊した場合どこに逃げるのですかといった話になった場合、現状で考えられる高い建物は学校くらいしかありません。そういったことから、こちらでは町内全部の学校の合鍵を保管しております。万が一そのような状況になれば最寄りの学校に急行し鍵を開錠することになります。当初はガラスを壊してもいいので中に避難するという話もありましたが、現在は合鍵を保管しております。避難勧告や避難命令を出した際には、学校等の上階に避難してくださいという方針を取っております。

- 松田委員 セーフティタワーは水のタンクですね。
- 櫻井防災管財課長 はい、給水塔ですね。
- 松田委員 練牛小学校の体育館に屋上を作ってくればね。本当に決壊したら一発で全滅ですよ。南郷地区は山が全然無いですから。どこにもない。南郷小学校や南郷中学校まで行くには遠いですよね。
- 櫻井防災管財課長 学校については、避難を想定して建てられた物ではないので、例えば将来的に一つの考え方として、松田委員さんがおっしゃったように、体育館の基礎を高く上げるなどが考えられるかなと。確か気仙沼市にそのような学校がありましたが、そういったことも一つの方法かなと。
- 松田委員 集中豪雨が降ったら一発で終わりますからね。この間決壊した大崎には悪いけれども、あれがなかったらどうだったかなと思いますよね。
- 櫻井防災管財課長 以前国交省の関係者から聞いた話なんですけども、九州など南の地域では、堤防の高さを高く設計しているようです。台風の影響があるということで。今後異常気象が続くようであれば、堤防の高さの設定についても根底から見直す必要があるということを知っています。
- 松田委員 それも金がかかるからね。お願いしますよ。
- 古内委員 江合川と鳴瀬川を結んでいる新江合川がありますが、あれは江合川の水が一定の高さを超えたときに鳴瀬川に水を逃がすというものなのでしょうけども、それにより鳴瀬川の水量が上がって越水したり、あるいは決壊する可能性があると思いますが、その辺の兼ね合いというのはどうなんでしょうかね。
- 櫻井防災管財課長 その辺のさじ加減といいますか、なかなか難しい部分ではあると思います。この件については部会長さんが詳しくそうですので。
- 曾根部会長 新江合川が出来た経緯というのは、新江合川は鳴子ダムができる前に完成しました。というのは、以前は江合川が氾濫することが多く、その対策として鳴瀬川に水を流すために昭和20年代に作ったんですよ。今はどうなのかというと、昭和20年代のアイオン台風が歴史的にも残っているのですけども、それと現在の雨の降り方は全然違うんですよ。私も河川関係出身なので気にしていたのですが、現在それを検証しているのかどうか分からないんですよ。
- 松田委員 洪水と地震が同時期に来たら一発で終わりですよ。そういうことも想定していただいた方が良いでしょうね。
- 曾根部会長 それは逃げるしかないんですよ。
- 徳永委員 短期的にはそうなんですよ。

松田委員 どこにも逃げようがない。

曾根部会長 全て固い物で囲って頑張るといのはできないはずですよ。国土強靱化云々といって大きな旗を揚げてやっておりますが、どうですか。

松田委員 あの頃は良かったんですよね。インフラに金出しているときは景気が良いですが、民主党あたりからガタガタきてますよ。要するにインフラ整備が無駄だということだから。あれで建設業者も減ってしまったし。

古内委員 鬼怒川が決壊しましたよね。あの降水量だとこの辺も危ないのですか。

櫻井防災管財課長 今回は4日間くらい連続で雨が降りましたが、最寄りの観測所は鹿島台になります。その観測データでは150mmから160mm位だったんですね。意外とイメージしたより少ないなと感じました。ただ山形の山間に知り合いがいて、聞いた話では260mm位降ったそうです。

古内委員 鬼怒川の方は400mmでしたかね。

櫻井防災管財課長 そうですね。丸森の筆甫で500mm超だったかな。
町内の雨量はそれほどでもなかったのですが、上流で降水量が多かったため、このような状況になったといえると思います。

曾根部会長 今日の審議は19時45分までとします。後片付けをして20時までとします。

松田委員 水道事業所長さんいらっしゃいますね。行政改革の時に浄水場の施設を見学させていただきましたが、浄水施設が2階にありますよね。

曾根部会長 1階じゃないですか。

松田委員 すいません上から見たんですね。僕が言いたいのは、子供たちに施設を見学させたりしていると思うのですが、あその階段は誰でも登れるようになっているんですね。行政改革委員として、その階段を立ち入り禁止にして簡単な鎖でもいいんですが、設置すべきではないかと申し上げておったんですけども、実行されていないようですので、大きな犯罪等はないと思いますけども、子供たちが登れないように安全のために柵等を設置した方が良いと思います。そういうこと伝わっていませんでしたかね。

早坂水道事業所長 はい、行革の方からそのような話があったと聞きましたが、まだ設置していません。

松田委員 それはどうしてですか。

早坂水道事業所長

ただ鎖だけ設置してもどうかということがありまして・・・。

松田委員

だけでも、ただポンポンと登っていけますから、鎖だけでも立ち入り禁止なんだということが分かりますからね。もちろんしっかり鍵をかけるのが一番いいですけどもね。そういうところがね、我々一生懸命やっても、全然そっちからこっちなんですよ。そういう事を町民が言っているんですよ。

古内委員

ちょっと唐突な意見かもしれませんが、かなりの数の外国人観光客が日本に来ていますが、東北に来る外国人は少ないですよ。東北の魅力をもっとPRして観光客を呼ぼうという動きもあるようなんですけど、もっと宮城県にも引っ張ってもらって、県北地方にも増やせたらいいなと思うのですが、そのようなことは宮城県で考えているんでしょうか。

櫻井防災管財課長

宮城県でディスティネーションキャンペーン、いわゆるDCキャンペーンで2回位やっていますよね。これは基本的に日本人の国内旅行者を呼び込むものなんでしょうけども、私も一時期商工を担当しておりましたが、美里町内は南郷地域、小牛田地域ともに元々観光資源に乏しく、ほとんどないに等しいです。ご存知のとおりだと思いますけども、何か作り上げてみようという努力もしてきましたが、いろいろな地域でも町おこしを進めていまして、ゆるキャラというものも、あちこちに多数出てきています。やはり客を呼び込むにはオンリーワンじゃないとダメなのかなと。現在も商工担当者は頑張っておりますが、町内のお祭りや単発的なイベントに終始してしまっているというのが現状ではありますね。一つの町だけで海外からの観光客を呼び込むというのは無理な話だと思いますので、やるとすれば県北エリアの市町村と一緒にやるとかでないかと、厳しいのかなと考えております。はっきり言って観光面が一番弱いと思います。

古内委員

農村体験とかはどうなんでしょう。

櫻井防災管財課長

以前やりました。牛の乳搾り体験とか、梨狩りなどやった時期はあります。仙台市の方々など数人来ていただいたのですが、単発で終わってしまったという印象ですね。

曾根部会長

持続性がないと駄目だね。

松田委員

花野果市場の管轄は何課ですか。

佐々木政策係長

産業振興課です。

松田委員

この間、買い物に行ったら八エが餅のところにおいて、店員の女の子に言ったら知らんぷりしているし、レジでも言ったらコバエだと。女房に聞いたら、いつもいるよということだったのでね。だからね、なんかしっかりして欲しいのね。あそこはトイレに石鹸が無いですね。何回も言っているんですけどね。本来は毎日掃除して毎日補充しなければいけないでしょう。消耗品なんだから。農家の人達やいろいろな人が利用します。何回も言っているけども改善されない。役場から指導しないと。八エがタッパについて離れないんですよ。売り場の人には気にならないんでしょうか。でも視

察に訪れる人もいて有名になっているのだから、毎日掃除してきれいにしてね。どうしたら売り上げを伸ばすことができるかとか考えて欲しいですね。

徳永委員

最後に確認ですが、4章から入っていくのですが、そうするとまず計画案106ページで4章のまとめ的なものが文章で書かれていて、そこから施策ごとのものが書かれているんですけども、ちょっとそこで若干、勘違いとまではいかないんですけど、例えば生活安全の確立というところを読むと、震災と原発の事しか書かれていないので、それしかやらないんだらうなと思うと、施策のところには他にもいろいろやりますよということが書かれているので、ちょっとその辺の整合性が取れていないのかなと感じているのですが、今後修正する予定なのか確認したかったのと、それから施策では目的があって現状課題があり、施策の展開というふうになっているのですが、その次の関連事業というのは施策の展開のさらに具体的な事業内容という意味なのか確認したいのですけれど。

佐々木政策係長

只今、徳永委員からご指摘があった106ページの件につきましては、こちらの意図している部分がうまく伝えきれていないということもありますが、まず基本方針というところで、全部書けばいいのかもしれませんが、全部を書かずに重点的なものを目の前に出しながら、町の姿勢を書いたもので、この部分については長く文章を書く予定ではありませんでした。もっと書く項目はあるのですが、1、2項目に絞らせていただいて書かせていただきました。

次に施策の件でございますが、施策につきましては、まず目的がございます。施策を実施することによって何ができるか、どうなるかということが目的であって、それに対しての現状課題、それで展開があり、この展開に対してどういった取り組みをしますかということ、町では予算の中で 事業費、 事業費というような個別の事業費、固い名前になってしまいますけれども、そういった取り組みの事業費というふうな予算の括りはしております。しかしながら住民の方々に分かりづらい名前ではなく、もう少し柔らかくしたような表現で、維持管理ですとか 支援というような表現としたのですが、それが施策の展開とうまく繋がらなかった事業もあると思います。それは今後やることのある事業かもしれませんし、やらないことになる事業かもしれません。ただし、考えられる事業、関連事業ということで関連という文字を使わせていただきました。これまでですと具体的な取り組みといった項目もあったのですが、今回から関連事業という表現にさせていただきます。

徳永委員

そういう意味での関連ですか。最初の説明だと、具体的な事業としてこういうのがあるよという意味で書いているのかなと思ったのですが、そうではあるけれども確実にやるという意味ではないということなんですかね。

佐々木政策係長

本当は全部やりたいところではあるんですが、次回の審議会でもご説明しますが、町の財政事情等がありますので、こういった事業が考えられると、こういった事業をやりながらこの目的を果たしていくんだという全体を見ていただけるような一つの施策の流れにしているところでございます。

徳永委員

正直、最初に関連事業と聞いたときに、施策の展開と関連した事業なのかなと思ったんですね。

だけでも中を見てみると、まさにその具体的事業かなと思ったんですね。であれば のタイトルの名前を変えた方が良いのかなと思ったんですけど、今のお話からすると想定される事業という意味合いなんですかね。

佐々木政策係長 事業精査しながら、本当に全部実施できるのかということもあり、そういった部分もありましたので、関連事業というような苦しい言い方になりますけども、こういった表現になっております。

徳永委員 ニュアンスとしては理解しました。ただ言葉としてどうかと思ひまして。

古内委員 先ほどもお話があったんですが、水害の件で114ページに の関連事業の7番目に、水害に対する未然の備えとありますが、これは具体的に啓蒙啓発という事だけではなく、先ほどもお話しがありました、避難所やそういうものを作るということなののでしょうか。

櫻井防災管財課長 いずれこの部分に関してもお話しさせていただきますが、どの町でもそうですが、地域の防災計画というものを作っております。これも随時見直しをしているものです。具体的な中身としてはハザードマップですね、洪水の崖等危険箇所等を地図上に示したマップがあるわけですが、これを全世帯に配布しております。ハード面の整備につきましては、先ほどもお話ししましたが、堤防などは河川管理になりますので、町単独ではできないということもありますので、避難やそういった部分に重点的にウェイトを置いているというところでございます。ですので、具体的に避難タワーを作るとかそういった構想までは踏み込んでおりません。

古内委員 防災無線について、今回水害があったところで問題になったところもございまして、現在聞こえない地域というのは現在なくなっているのですか。

櫻井防災管財課長 実際に聞こえづらいというご意見はまだあります。そういった部分の解消策というのは、もちろん設置した業者とのやり取りの中で、難聴地域の解消をしなくてはいけないという話はあるわけで、立地条件や諸々の条件によりまして、これ以上改善の余地はないという地域もございまして。そういった地域について、どのように補完するのかといったことになりまして、各戸に防災ラジオを配布するとか、個別受信機を設置することが考えられます。ただ価格が安いものではありませんので、全世帯に配布するとなると5億、6億ほどかかります。十分聞こえる地域もあるわけですので、聞こえづらい地域については、そういった個別受信機の購入額の半分を助成するなどを考えている状況でございます。

古内委員 携帯電話にも情報を流していただけるとはいいですね、メールとかで。

櫻井防災管財課長 今回も避難準備情報等を何回か送信させていただいております。緊急速報のエリアメールというものがございまして、江合川の両サイドの行政区に対して避難準備としてエリアメールを送信しています。受信できる端末を持っていない方もいらっしゃいますので、それと併せて防災無線や消防団に広報をお願いするとか、そういった抱き合わせで対応しております。